

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 10 - 36

1 事務事業の表示

■ : 該当

事務事業名	芸術文化公演事業							
評価者	担当課名		教育振興課	担当係名		生涯教育係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長		
		氏名	高橋健仁		氏名	大和良成		
事業の概要	舞台芸術の機会が少ない本町において、児童・生徒等を対象に演劇や音楽などの鑑賞機会を支援し、生の芸術にふれる場をつくり、情操の涵養を図るとともに、芸術への理解を深め地域文化の活性化を図るよう推進している。					全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度)		
						事業費	国・道支出	千円
							地方債	千円
							その他	300 千円
							一般財源	13,075 千円
							事業費計	13,375 千円
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()				
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	B			
事業の位置付け	政策目標	3 のびやか・雄武 ~ 教育・文化の振興 ~						
	基本施策	# 芸術・文化の振興						
	単位施策	2 芸術・文化活動の促進						
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務				
	その他計画・根拠等							
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)		
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円		
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円		
	その他財源	千円	159 千円	千円	150 千円	千円		
	雄武町負担額 (一般財源)	1,156 千円	3,421 千円	1,475 千円	4,325 千円	1,475 千円		
	合 計	1,156 千円	3,580 千円	1,475 千円	4,475 千円	1,475 千円		

442

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	的確な学習ニーズを把握し、情報の提供と学習支援が必要である。	公演回数と鑑賞数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	芸術事業への興味・関心の促進。	公演回数	指標(指標計算式 / 解説)	目標値及び実績値
			目標年度	平成21年度
			目標値	5 回
			実績値	6 回
			達成度	120.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	芸術・文化への理解。	鑑賞者数	目標年度	平成21年度
			目標値	800 人
			実績値	944 人
			達成度	118 %
			内 容(どのような手段で何を行ったか)	
公演会の開催	保育所・及び小1 ~ 小2(人形劇)、小3 ~ 小4(観劇)、中学生(中止)、高校生(観劇) 文化公演事業(お笑いライブ、らんま先生)			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	芸術鑑賞の機会が少ないことで、他の地域との芸術文化に関する教養の格差が生じることから、より多くの芸術鑑賞の場を提供し、町民の芸術文化に対する知識等を高めるため必要な事業である。
必要 / 概ね必要 / 課題あり	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	町民の年代層に応じた芸術鑑賞の場を提供することができ、その結果、町民に対する芸術文化の意識の高揚を図ることができた。
有効 / 概ね有効 / 課題あり	☒ 達成	
	☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		町民ニーズに沿った事業メニューを提供することにより効果的な運営が図られ、参加率向上につながった。
	☐	事業費抑制	
	☐	人員削減	
	☐	時間短縮・作業軽減	
	☒	その他	
効率的 / 概ね効率的 / 課題あり			

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		町民全体を対象とした芸術文化とのふれあいの場を提供したことにより、計画以上の集客があり、参加意欲の向上が図られている。
	☒	受益者負担がある	
	☐	受益者負担がない	
	☐	受益が一部に偏る	
公平 / 概ね公平 / 公平でない	☐	その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の参加意欲が向上し、芸術への関心も高まってきており、計画どおり事業を進めることが出来た。		



継続 / 現状維持		
芸術鑑賞を通して、教育的・文化的な面からも期待でき、鑑賞及び発表機会の支援が重要である。今後もより良い芸術に親しめるよう継続して開催する。		

* 展開方向の区分

- 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--